

2020年7月NHK中国地方放送番組審議会

7月のNHK中国地方放送番組審議会は、16日（木）、広島放送局において、8人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、8月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
副委員長	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
委員	安彦恵里香	（Social Book Cafeハチドリ舎 店主）
	伊藤 康丈	（一般社団法人イワミノチカラ 代表理事）
	笠原 浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科 教授）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	松本 協一	（双湖事業化計画合同会社 代表社員）
	宮崎 智三	（中国新聞社 論説主幹）

（主な発言）

<放送番組一般について>

- 6月19日（金）ラウンドちゅうごく「緊急特番 河井前法相夫妻逮捕の波紋」を見た。速報性のある番組だったが、現金を受け取った広島県の自治体の首長や議員の責任について触れておらず残念だった。また、マスメディア全体の問題として、検察の公表に沿った報道がなされる傾向を懸念している。今回の事件の背景には、政治的な確執や思惑などがあるのかどうかという観点から取材がなされていなかったため、表面的な内容に終始していたように感じた。近年では無料動画サイトなどで政治的な問題について解説されており、報道機関としてもぜひ踏み込んだ内容の番組制作を期待したい。
- ラウンドちゅうごく「緊急特番 河井前法相夫妻逮捕の波紋」を見た。広島政界だけでなく永田町の問題でもあるという日本大学法学部の岩井奉信教授のことばは、的

を射たものだと感じた。また、補欠選挙の見通しについて分かりやすく伝えていたが、今後は広島県内の各自治体のもも含めて、今回の事件を引き金に行われる選挙についてまとめて伝えてほしい。番組の最後に、河井前法務大臣が証拠隠滅を図った事実を強調して伝えていたが、キャスター自身の感想を伝えて番組を締めてほしかった。また、一部の出演者の滑舌がよくなくて聞きづらく、番組に集中できない部分があった。

- ラウンドちゅうごく「緊急特番 河井前法相夫妻逮捕の波紋」を見た。時宜を得た放送であり、論点も整理されており分かりやすく伝えられていたと思う。しかし、河井克行氏が法務大臣を辞任した際の問題については触れていなかったため、もの足りなく感じた。今後は現金を受け取った政治家の倫理的・道義的責任についても厳しく追及してほしい。また、今回の事件の背景については、選挙をめぐる政治と金に関する構造的な問題があるという視点でも伝えてほしい。

(NHK側)

政治家の犯罪を取り上げる際には、一般的には犯罪の事実、事件の背景、政界への影響など今後の見通しの3点が主な論点として報道されるが、NHKでは取材を通じて知りえた事実を積み上げて報道している。この番組は速報性を重視して制作したが、今後も取材を重ねニュースや番組を通じてこの事件を詳しく伝えていきたい。前法務大臣が証拠隠滅を図ったという情報は、放送の直前に入手した情報であり強調して伝えた。

(NHK側)

事件を扱うときは、逮捕の経緯や容疑について詳細に伝えるため、捜査機関の主張に沿った報道という印象を視聴者に与えてしまうこともあり、被疑者や弁護側の主張をどこまで伝えられるかは犯罪報道における長年の課題である。被疑者が容疑を否認している場合にはその主張も丁寧に伝えるよう徹底している。

- 6月26日(金) ラウンドちゅうごく「Withコロナを生きる ～危機と闘う人々の記録～」を見た。取材対象が幅広く、また一人一人の実情が伝わってくるよい番組だった。一方で、雇用を失った人に対する行政の支援についても詳しく伝えてほしかった。

(NHK側)

今回は取材対象が多岐にわたり、時間尺の制約もあった。行政の取り組みについても今後、適宜取材し、伝えていきたい。

- 7月3日(金) ラウンドちゅうごく「西日本豪雨2年 水害と新型コロナから命を守る」(総合 後7:30～8:42 中国ブロック)を見た。時間を拡大して放送していたが、内容がよく整理されており、また出水期を迎えた中での放送で、時宜を得ていた。ただ、番組冒頭で放送概要を紹介しているにも関わらず、番組の途中で次の項目をそのつど画面上に示す必要はあるのか疑問に感じた。また、無料通話アプリで災害情報を共有する取り組みを紹介しているのはよかったが、先日の大雨の際に実際に活用されたのか気になった。
- ラウンドちゅうごく「西日本豪雨2年 水害と新型コロナから命を守る」を見た。情報量は多かったがあまり新鮮味を感じなかった。また、BGMの使い方に違和感があり、特に問題解決の糸口を伝えるシーンなど制作者や出演者が強く伝えようとしている場面での音楽が過度で、あおられているような気分になるだけでなく、出演者の会話の妨げになっているように感じた。
- ラウンドちゅうごく「西日本豪雨2年 水害と新型コロナから命を守る」を見た。分散避難を実際に想定した内容が伝えられており、自分自身の避難を考え直す機会となった。また、災害時に移動用のバスを供出する取り決めを自治体と締結した山口市のバス会社の取り組みを見て、地域社会における自助や共助の精神が感じられ感心した。ただ、災害発生時には会社も相応の打撃を受けると予想され、地域支援の対価となるような会社側の利点はないのか疑問に思った。無料通話アプリを用いた取り組みについて、自治体によってこうした先進的な取り組みに対する積極性に差があるのは

なぜかということも疑問として残った。番組の後半で、復旧工事の遅れについて自治体の担当者取材していたが、取材によって自治体の意識が変容することもあると思うので評価したい。しかし、一地方自治体の力では解決されない問題でもあるので、問題の本質については、さらに掘り下げて取材してもらいたい。

- ラウンドちゅうごく「西日本豪雨2年 水害と新型コロナから命を守る」を見た。要点をまとめて伝えていたので、必要な情報を整理しながら見ることができた。復興の遅れについては、復旧工事の影響で生活に支障をきたしている被災者が発生している事例など、必要な支援が適切に届いていない現状を掘り下げて伝えてほしい。

(NHK側)

無料通話アプリを用いた情報共有については、全国に先駆けた取り組みとして紹介したが、先日の大雨の際にどのように利用されたのか引き続き取材したい。

(NHK側)

番組の次の項目を画面上で示す演出は一般的な手法で、72分間と長い番組のため番組途中から見る視聴者を念頭に実施しているが、番組冒頭から見ている視聴者にとっては過剰ではとの指摘は参考にした。企業の防災活動への参加については、防災が行政頼みとなっている現状を打破するような地域ぐるみの取り組みの例として紹介した。各自治体さまざまな形態で先進的な取り組みは行われており、引き続き伝えていきたい。いまでも支援を必要としている被災者も多く、今後も取材を重ねていく。

- 7月6日(月)～15日(水)「情報維新!やまぐち」で大雨関連のニュースを見た。災害情報を得るために見ていたが、併せてNHKニュース・防災アプリを利用した。災害情報や雨雲の様子を知ることができ避難の判断に有用なアプリだと感心したので、番組の中でも紹介して普及に努めてほしい。

(NHK側)

NHKニュース・防災アプリについては、普及も兼ねて今後もニュースなどで使い方を説明していく。

- 7月8日(水)「しまねっとNEWS 610」で「#ぬりえでSTAYHOME」という企画を見た。塗り絵を投稿した子どもたちの生活風景を取材したものだったが、新型コロナウイルスの感染拡大により家で過ごす時間が多い中、自分の塗り絵が放送で紹介されて、とても喜んでいる子どもたちの様子を見て、視聴者参加型の企画はテレビの持つ大きな価値の一つだと感じた。14日(火)、15日(水)の放送では、江の川の氾濫をきめ細かく伝えていたので、流域のさまざまな事業者の被害状況がよく伝わった。一方で、氾濫に至る構造的要因や対策のあり方についての説明がもの足りなかったため、今後の防災のためにも引き続き取材してもらいたい。また、消防団などの自治組織が活躍して被害を最小限に抑えた事例もあり、地域で取り組んでいる防災活動についても焦点を当ててほしい。

(NHK側)

「#ぬりえでSTAYHOME」は反響が大きく、投稿募集をしていた松江局ホームページの訪問者数も増加した。江の川の氾濫については、16日(木)の「しまねっとNEWS 610」で流域に被害をもたらした一因とされるバックウォーター現象の解説を行う予定だ。

- 7月10日(金)@okayama「小さな旅 里山の輝き 受け継いで ～岡山県吉備中央町～」を見た。ブッポウソウの保護活動を通じた地元の人々や子どもたちの交流だけでなく、吉備中央町の自然の美しさや自然と人間の共生についても考えさせる構成になっており、映像と音へのこだわりも感じられてよかった。

(NHK側)

この番組は12日(日)に全国放送した「小さな旅」を岡山県域で先行放送したものだ。今後も地域の誇りを紹介する番組を制作していきたい。

- 7月12日(日)小さな旅「ユナちゃんの瑠璃(るり)色の鳥～岡山県 吉備中央町～」を見た。番組内で使用していたブッポウソウの静止画は高画質で感心したが、対して動画の画質は悪くブッポウソウ本来の美しさが伝わってこず残念だった。また、番組の副題と関連のない内容が取り上げられている点に違和感を覚えた。

(NHK側)

番組の主要な構成要素を副題にしているが、一部異なる内容を扱うこともある。

- 7月10日(金)さんいんスペシャル「それぞれの“最後の夏” ～2020 高3が向き合う部活～」を見た。ふだん取り上げられることが少ない部活動に焦点を当て、新型コロナウイルス感染拡大の影響で発表や活躍の場が限られて厳しい状況にありながらも、真摯(しんし)に部活動に取り組む高校3年生の様子を丁寧に伝えていたことに感心した。

(NHK側)

新型コロナウイルス感染拡大の影響がある中でも意欲的に部活動に取り組む生徒たちの姿を、少しでも多く紹介したいと考えて制作した。

- 7月10日(金)Yスペ!「どうする?コロナ時代の学校教育」を見た。時宜を得た放送であり、子を持つ親が知りたい情報について論点を絞って伝えていたので、非常に分かりやすかった。教育評論家の尾木直樹さんの的確な意見にも説得力があった。番組中で、感染防止と体育祭開催の両立を図る方法を子どもたちが主体となって考える取り組みを紹介していたが、柔軟な発想で新たな競技方法を生み出す様子に非常に驚かされ、従来の教育に一石を投じるものだと思った。一方で、他の都道府県に比べて山口県のオンライン授業の環境整備があまり進んでいないように感じており、ぜひこの点について取り上げていただきたい。

(NHK側)

新型コロナウイルス感染拡大の影響がある中でも発想しだいで状況

を好転させる瞬間を伝えることができてよかった

- 7月14日(火)「もぎたて！」で「おうちでミュージアム」という企画を見た。長期休館中の大原美術館について紹介しており、新型コロナウイルス感染拡大の影響下でも文化の発信を大切にしていこうという姿勢が見て取れた。大原美術館を大切に思う地元の人々への貢献にもなったのではないかと感じるが、文化や芸術、伝統芸能について今後も発信し続けてほしい。

(NHK側)

アナウンサーがスマートフォンを使って、一人でロケを行い、機動的に美術館の魅力を伝えることができる企画だ。全国的にも同様の企画が広がっており、特別展などに限らずふだんから地元の美術品を発信できるなど汎用（はんよう）性が高い制作手法で、今後も続けていきたい。

- 6月21日(日) 目撃！につぼん「パイゾンが見たニッポン～出雲 外国人労働者はいま～」を見た。景気の減速に伴い大手電子部品メーカーに勤める日系ブラジル人従業員の雇用が次々と失われている状況について、取材に対して会社側からの回答が文書にとどまっていたことがとても残念だった。退職を余儀なくされた人を中心に構成していたが、地域経済への影響が非常に大きい企業であるため、企業側の主張や地域住民の視点もきちんと伝えるべきだと思う。また、数千人におよぶ地域に住む外国人労働者への対応は自治体が主体的に担うべきで、行政側の考えや善後策を含めて取材を続け、取り上げていただきたい。

(NHK側)

会社側へのインタビュー取材を申し込んでいたが実現には至らず、文書による回答を得るにとどまった。地域経済に大きな影響力を持つ企業であり、課題解決への糸口を探るためにも、取材を受けてもらえるよう粘り強く交渉を続けていきたい。

- 6月24日(水) 病院ラジオ「あの子どもどうしてる?スペシャル」(総合 後7:57~8:42)を見た。日常ではあまりうかがい知ることのない依存症治療の専門施設や小児専門病院をお笑い芸人のサンドウィッチマンの2人が訪ね、患者やその家族と交流する姿がいつもほほえましく、見ていてとても心が温まる番組だ。
- 7月5日(日) NHKスペシャル 戦国~激動の世界と日本~(2)「ジャパン・シルバーを獲得せよ 徳川家康×オランダ」を見た。最新の研究に基づいて戦国を描き出しており、従来の歴史観を覆すような内容で、今後の教科書が書き換えられるかもしれないと感じる秀逸な番組であった。
- 気象情報について、地域放送でも全国放送と同様にさまざまな気象画面を使って解説するのを見て、防災に役立つ質の高い情報をきめ細かく提供しており感心した。一方で、情報が高度であるがゆえにその解釈については気象予報士の説明に頼るところが大きく、視聴者が見てわかるような内容ではなくなっている気がする。気象画面の読み取り方を説明する機会を設ければ、視聴者の理解促進につながり防災にも一層役立つと感じる。

(NHK側)

本部で使用している気象作画システムは全国の放送局でも使用でき、気象予報士が自分で画面を操作しながらきめ細かい気象情報を提供できるようになっている。

(NHK側)

近年の気象変動の影響により、気象予報士でも気象情報を読み解くのは難しくなっているが、少しでも視聴者の防災意識の向上につながる情報を提供できるよう検討したい。

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響で臨時休校が長く続くなど、児童や生徒たちは前例のない環境を体験している。特に部活動に取り組んできた中学3年生や高校3年生にとって、試合や発表の機会が奪われており寂しい思いをしているのではないかと感じる。

中国地方5県で彼らを取り上げる企画を作ってみてはどうか。

- 災害キャンペーンや被爆75年キャンペーンのイメージスポットの映像や音楽の質が非常に高く、メッセージも強く伝わってくるなど、とても感心した。

NHK広島放送局
番組審議会事務局